

## 102 名古屋学生会館 一名古屋城の学生寮—

大学文書資料室では、文学部卒業生の手塚哲氏からの寄贈による、約1千点におよぶ名古屋学生会館の関係資料を所蔵しています。「学生会館」といっても、現在の東山キャンパスにある学生会館のことではありません。1949(昭和24)年から73(昭和48)年にかけて、名古屋城二の丸にあった学生寮のことです。

名古屋学生会館は、嚶鳴寮(現在は国際嚶鳴館)のような、名大が保有する寮ではありません。敗戦後、文部省の外郭団体である財団法人学徒援護会(敗戦前の財団法人動員学徒援護会を改組、現在の独立行政法人日本学生支援機構の前身)により、全国各地に学生会館が設置されましたが、その一つが名古屋学生会館でした。

しかし同館は、本部や多くの文系学部などがあった名城キャンパスに隣接していたこと、名大生が多く入寮していたことなどから、名大の歴史とも浅からぬ関わりがありました。また、その設置についても、名大は密接な関係を持っ

ていました。

名大は、一貫して学生会館建設運動を支持しますが、その一方で運動との複雑な利害関係も持っていました。名大は、占領軍に接収されていた名古屋城二の丸の旧第6連隊の敷地や建物を、接収解除とともにキャンパスとして確保しようとしていたからです。すでに建設前から旧連隊の建物で寝起きし、「学生会館」を名乗っていた学生たちにとって、名大のキャンパス計画との関係は微妙なものがありました。

紆余曲折のうちに設置された名古屋学生会館ですが、各地の学生会館と比べてもきわめて徹底していた寮生自治にその特徴がありました。運営資金は文部省の予算が学徒援護会を通じて確保されるものの、運営そのものには他機関の介入を基本的に許さず、もっぱら寮生たちからなる自治委員会が運営していたのです。



4	3
	2
1	

- 1 白丸で囲ったあたりが名古屋学生会館。男子寮と女子寮に分かれていた。その右の広場を囲うように本部・附属図書館・文学部・法学部が、下方に教育学部があった。教育学部の下方には、かつて天守閣があったが、名古屋空襲で全焼していた(1959年に再建)。
- 2 名古屋学生会館設立準備委員会関係の文書類。
- 3 『名古屋学生会館案内』(学徒援護会愛知県支部、1949年)。
- 4 名古屋学生会館が発行していた雑誌『らじょう門』。らじょう(羅生)門とは、名古屋城二の丸の東鉄門の異称。

### 名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは総務課(基金推進室)あて(電話052-789-4993, 2011、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp) にお願いたします。